

令和元年度小矢部市議会 議会報告会

日時：令和元年11月26日（火）

18：30～20：00

開催場所：小矢部市総合会館

正得公民館

水島公民館



(写真：ホッケー三井アウトレット杯)

議会報告会

はじめに

1. 議会構成
2. 議員紹介
3. 9月補正予算の概要
4. 意見交換会の資料説明

次 第

意見交換会

1.人口減少について

- ・ 市及び各地域ごとの人口動態
- ・ 市の将来目標（目標人口）
- ・ 市の人口対策施策
- ・ 人口減少への提案

2.災害対策について

- ・ 地震・風害・水害
- ・ 小矢部市洪水ハザードマップ
- ・ 砺波平野断層帯西部、森本・富樫断層帯及び邑知潟断層帯被害想定
- ・ 災害の未然防止策

※小矢部市議会の議会構成

小矢部市議会議員構成及び議会選出委員等一覧

令和元年9月12日現在

議 長	福 島 正 力					
副 議 長	山 室 秀 隆					
総務産業建設常任委員会委員	委員長	義浦英昭	副委員長	竹松豊一		
	出合和仁	吉田康弘	白井 中	福島正力	嶋田幸恵	砂田喜昭
民生文教常任委員会委員	委員長	藤本雅明	副委員長	谷口 巧		
	林 登	山室秀隆	加藤幸雄	中田正樹	石田義弘	沼田信良
議会運営委員会委員	委員長	沼田信良	副委員長	石田義弘		
	山室秀隆	義浦英昭	藤本雅明	中田正樹		
公共施設再編特別委員会委員	委員長	義浦英昭	副委員長	出合和仁		
	竹松豊一	山室秀隆	白井 中	嶋田幸恵	沼田信良	砂田喜昭
人口対策特別委員会委員	委員長	吉田康弘	副委員長	林 登		
	谷口 巧	加藤幸雄	藤本雅明	中田正樹	石田義弘	
決算特別委員会委員	委員長	嶋田幸恵	副委員長	吉田康弘		
	林 登	竹松豊一	出合和仁	谷口 巧	加藤幸雄	義浦英昭
	白井 中	中田正樹	沼田信良	砂田喜昭		
議会だより編集委員会委員	義浦英昭	吉田康弘	藤本雅明	福島正力		

◎ 9 月補正予算の概要

議案第 34 号 令和元年度小矢部市一般会計補正予算（第 2 号）

補正額 8,456.5 万円

累計予算額 168 億 2,854 万円

《主な事業》

- ・老人福祉対策費 1,258.2 万円
ケアタウンおやべの介護浴槽等の大規模修繕に対して助成を行うもの
- ・放課後児童健全育成費 30 万円
放課後児童クラブの児童図書を整備するもの（寄付金を活用）
- ・文化財保護費 115.9 万円
博労町町内会の山蔵の外壁修繕等を行うもの
- ・財政調整基金積立金 6,000 万円

議案第 35 号 令和元年度小矢部市公共用地先行取得事業特別会計補正
予算（第 1 号）

補正額 10.2 万円

累計予算額 1 億 5,410.2 万円

《主な内容》

決算の確定に伴う土地開発基金の積立金の増額

議案第 36 号 令和元年度小矢部市国民健康保険事業特別会計補正予算
（第 1 号）

補正額 2,649 万円

累計予算額 29 億 7,899 万円

《主な内容》

決算の確定に伴う基金積立金の増額、システム改修費の増額

議案第 37 号 令和元年度小矢部市後期高齢者医療事業特別会計補正予
算（第 1 号）

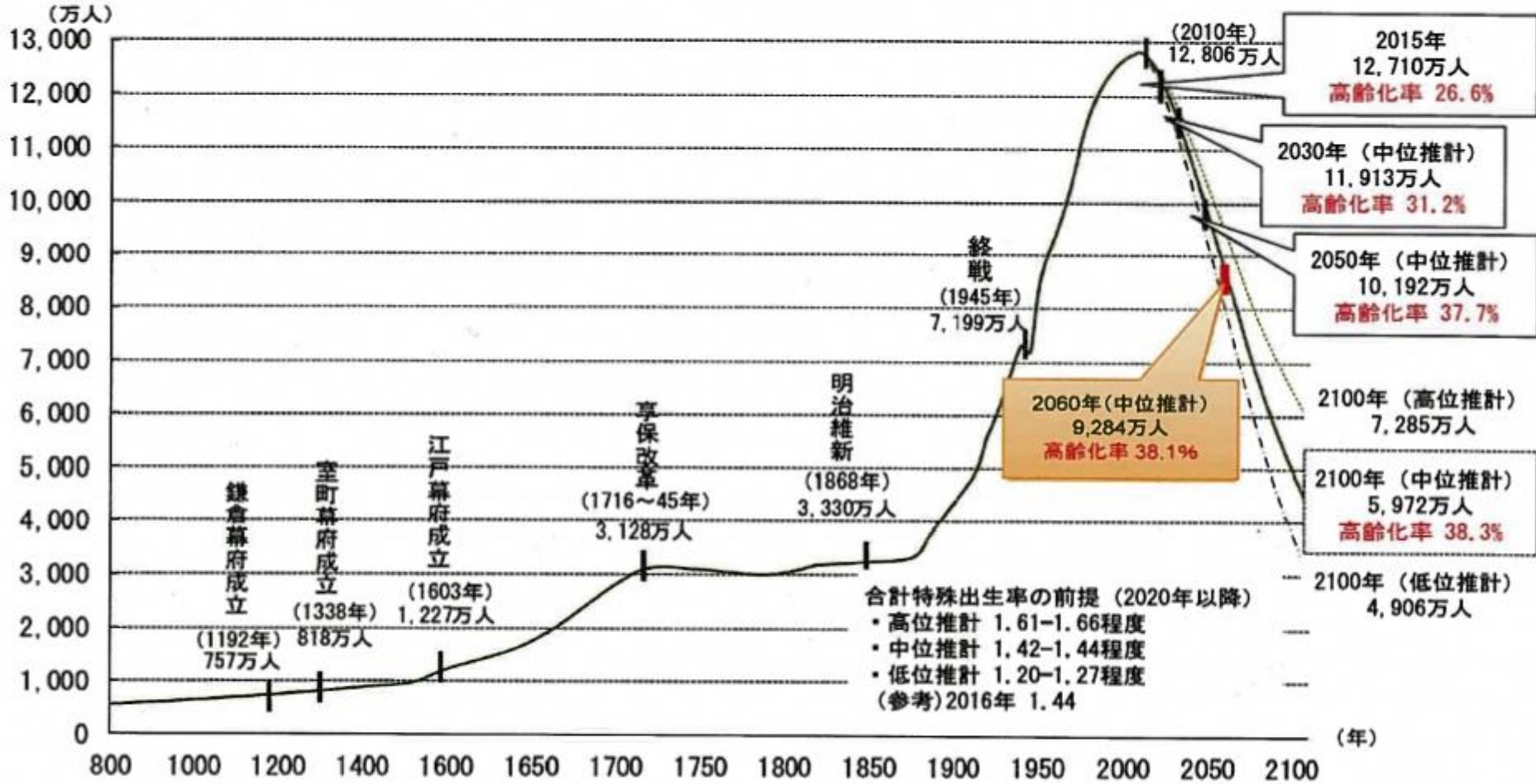
補正額 97.8 万円

累計予算額 8 億 9,117.8 万円

《主な内容》

決算の確定に伴う後期高齢者医療広域連合納付金の増額

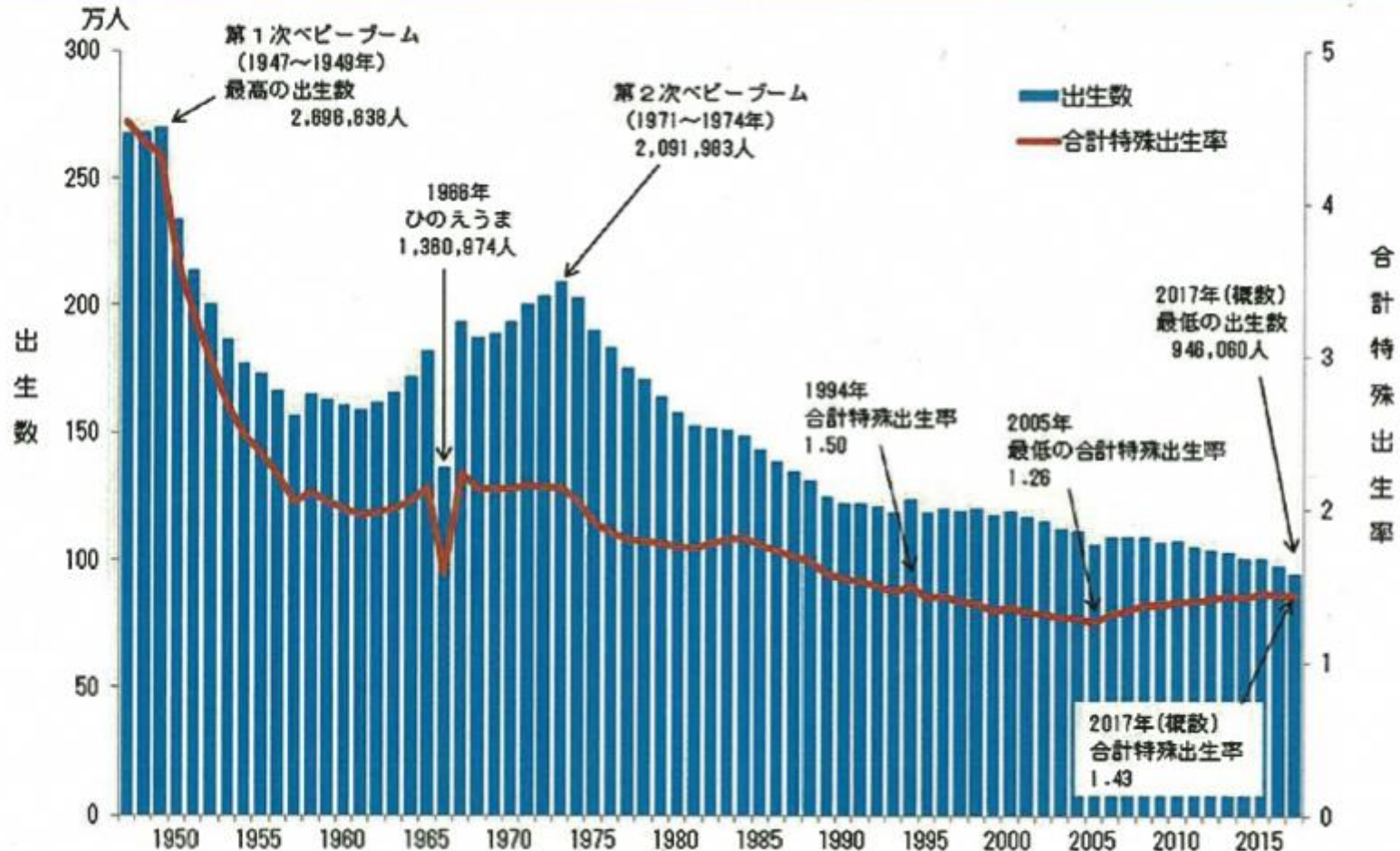
日本の人口推移



(出典)2010年以前の人口:総務省「国勢調査」、国土庁「日本列島における人口分析の長期時系列分析」(1974年)をもとに国土交通省国土政策局作成
それ以降の人口:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」をもとに総務省にて加工

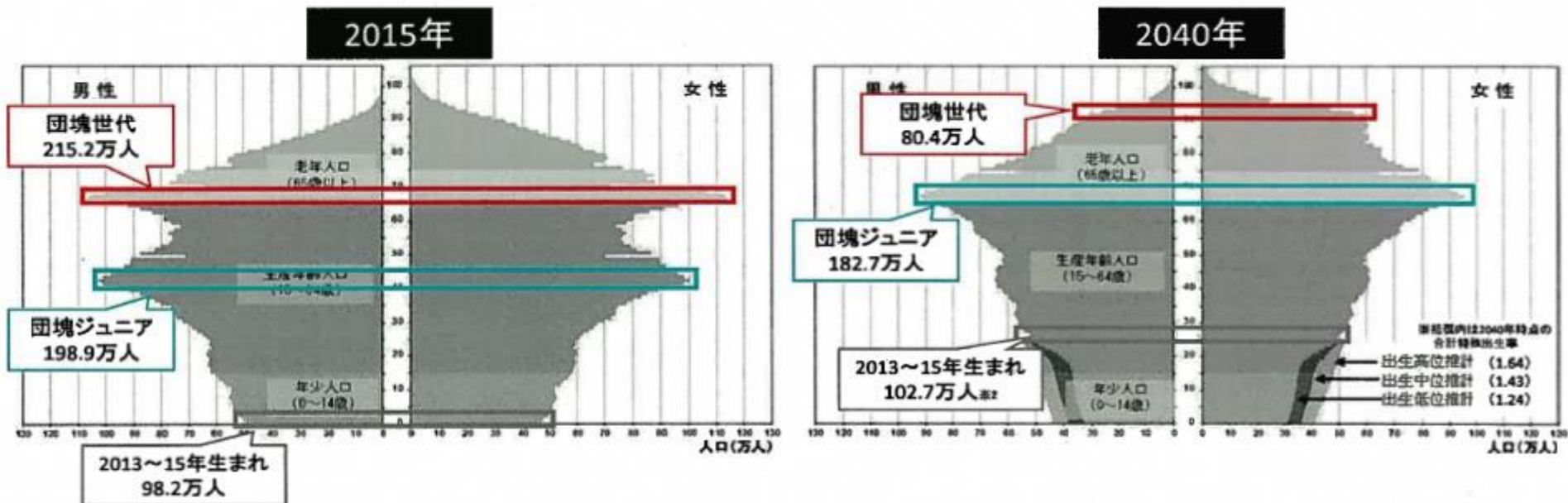
日本の出生率・出生数の推移

- 出生数・出生率は、1970年代半ばから長期的に減少傾向。2016年は出生数が100万人を切った。
- 合計特殊出生率は、人口置換水準(人口規模が維持される水準)の2.07を下回る状態が、1974年(昭和49年)の2.05以降、40年以上にわたり続いている。



資料:厚生労働省「平成29年(2017)人口動態統計月報年計(概数)」等

2040年に向けた人口の動向について



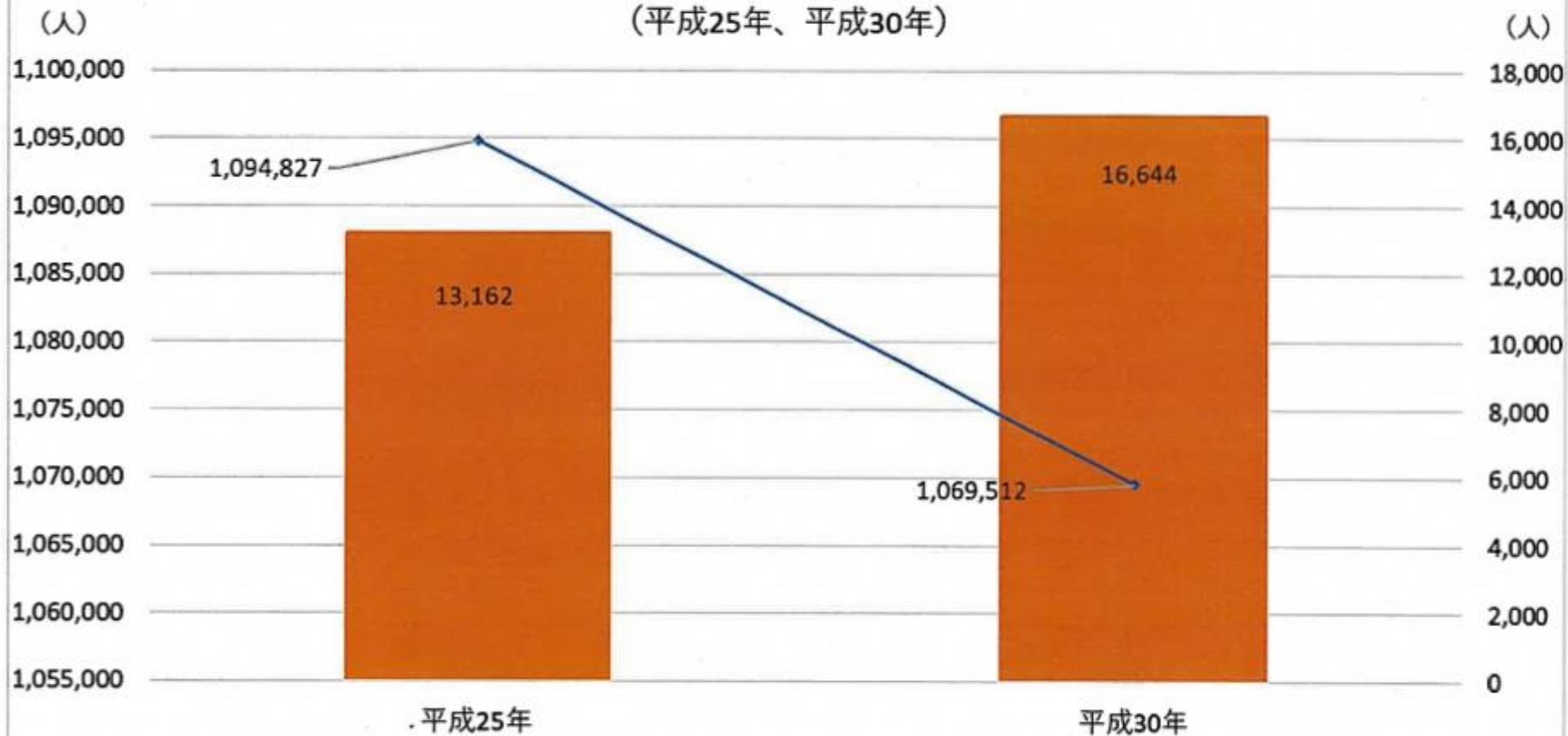
	出生数	2015年※1	2040年※1
団塊の世代 1947~49年生まれ	267.9万人 ~269.7万人	215.2万人 66~68歳	80.4万人 91~93歳
団塊ジュニア 1971~74年生まれ	200.1万人 ~209.2万人	198.9万人 41~44歳	182.7万人 66~69歳
【参考】 2013~15年生まれ	100.4万人 ~103.0万人	98.2万人 0~2歳	102.7万人※2 25~27歳

※1 2015年、2040年の各世代人口は各年齢の平均を記載。

※2 日本の将来推計人口は、国籍に関わらず日本に在住する総人口を推計の対象としており、国際人口移動率(数)を仮定して推計を実施している。

出典:出生数は厚生労働省「人口動態統計調査」から作成。
2015年、2040年人口は「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)から作成

富山県における総人口及び外国人人口数の推移
(平成25年、平成30年)



※平成30年は1月1日現在、平成25年は3月31日現在

※総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査から作成

外国人人口 ← 総人口

75歳以上人口増減率と15～74歳人口増減率（2015年～2040年）

（富山県下10市）

		75歳以上人口増減率								
		～▲50%	▲50%～▲25%	▲25%～±0%	±0%～+25%	+25%～+50%	+50%～+75%	+75%～+100%	+100%～+125%	+125%～+150%
15～74歳人口増減率	+25%～									
	±0%～+25%									
	▲25%～±0%				黒部市	富山市、砺波市、射水市				
	▲50%～▲25%			氷見市	魚津市、滑川市、小矢部市、南砺市	高岡市				
	▲75%～▲50%									
	～▲75%									

①15～74歳人口増、75歳以上人口急増

②15～74歳人口減、75歳以上人口急増

③15～74歳人口急減、75歳以上人口急増

④15～74歳人口急減、75歳以上人口安定

⑤15～74歳人口急減、75歳以上人口急減

（色なし）15～74歳人口安定、75歳以上人口安定

※ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月）」から作成。

地域ごとに異なる変化・課題の現れ方（2015年～2040年）

①15～74歳人口増、75歳以上人口急増

- ・過度な人口集中は大規模災害時のリスク、新たな住民が増える中、地域の防災力の基盤となる地域コミュニティの形成が課題
- ・人口増加により公共施設の整備が必要となる場合、特別区など人口集積し、土地の希少性が高い地域が多いため、新たな住民ニーズへの対応の制約となるおそれ

②15～74歳人口減、75歳以上人口急増

- ・高齢者が急速・大幅に増加し、膨大な介護需要が発生、地域における医療・介護サービスの提供体制の構築が課題。一方、15～74歳の人口減少により医療・介護サービスの担い手の確保が課題
- ・医療・介護・住まい・公共交通・生活支援が総合的に地域で提供され、暮らし続けていけるよう地域コミュニティの強化や形成が課題
- ・移動手段に占める自動車割合が高い地域では、高齢者の増加に対応した移動手段の確保が課題
- ・都市の低密度化が進み、空き地・空き家の増加による都市のスポンジ化が課題

③15～74歳人口急減、75歳以上人口急増

- ・急速に高齢化が進行、介護ニーズの急増に対して担い手の減少がより極端に生じる
- ・人口減少の進展により、生活を支えるサービスやインフラの維持が課題

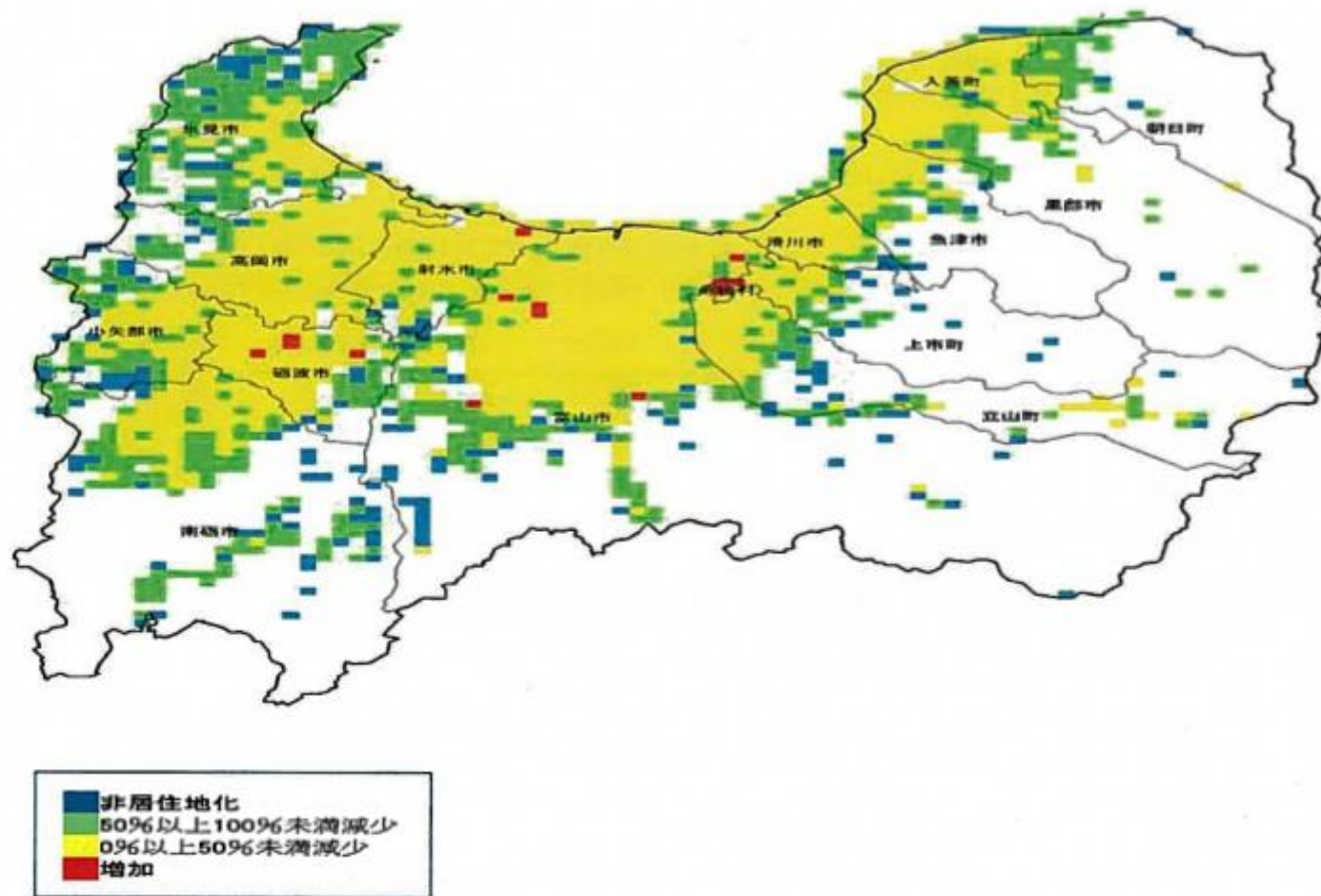
④15～74歳人口急減、75歳以上人口安定

- ・75歳以上人口は大きく増加しないものの、15～74歳人口の急減により高齢化率が更に上昇
- ・地域産業や農業等の担い手の確保が課題
- ・75歳以上人口の増加鈍化や減少により、人口減少が加速化し、医療機関等の都市機能、生活を支えるサービスやインフラの維持が課題
- ・利用者が少ないため、5GなどSociety5.0の基盤となる設備整備が課題

⑤15～74歳人口急減、75歳以上人口急減

- ・人口減少が急速に進むため、課題が深刻な形で現れる可能性
- ・他方、「田園回帰」の流れが広がることで、人口構造や地域の状況が大きく変化する可能性

【富山県】2050年の人口増減状況(2010年との比較)



(出典)国土交通省 メッシュ別将来人口推計のさらなる充実と活用の展開(平成26年7月)参考資料より抜粋

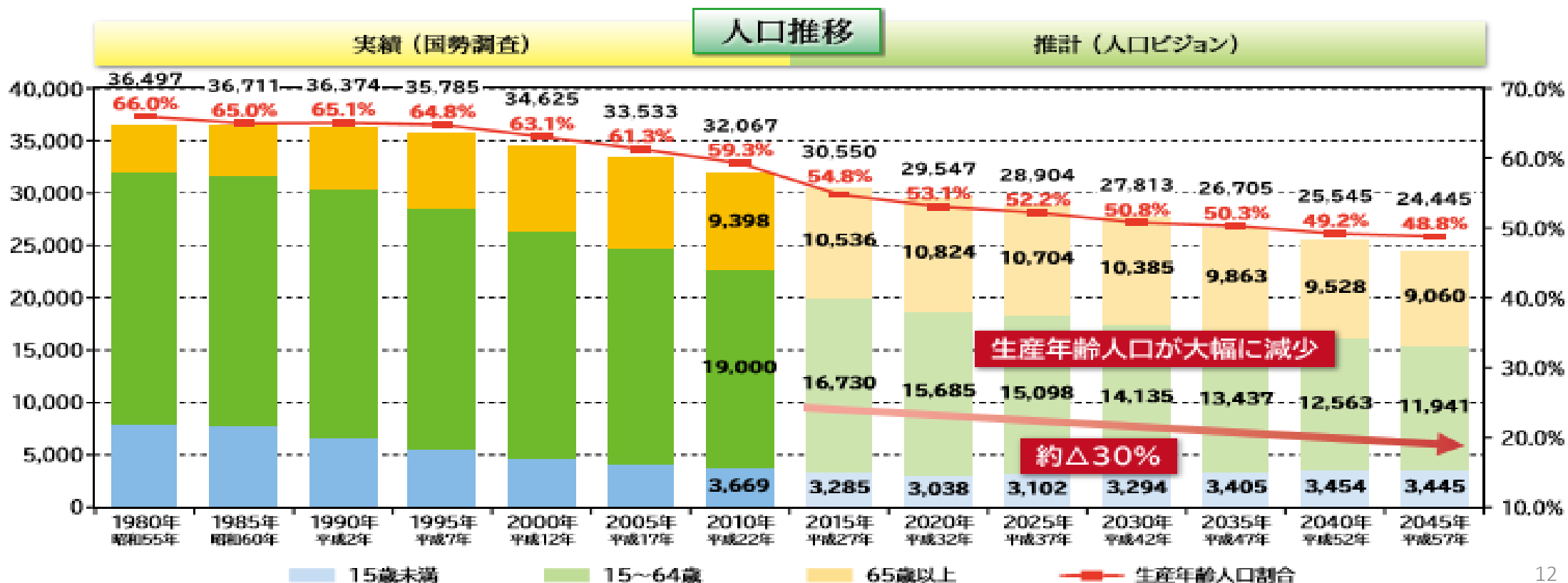
小矢部市の将来人口展望

本市の人口は、昭和60年（1985年国勢調査）をピークに減少へ転じ、平成22年（2010年国勢調査）には32,067人となりました。

アウトレットや企業誘致の効果を反映した※人口ビジョンの推計では、平成57年（2045年）に24,445人となることが予想され、平成27年（2015年）から約2割の減少となり、急速に人口減少が進む結果となっています。

中でも、生産年齢人口（15～64歳）の減少は深刻で、平成57年（2045年）に11,941人と推計され、平成27年（2015年）から約3割減少することが予想されています。

※人口ビジョン：小矢部市人口ビジョン（H27.10）

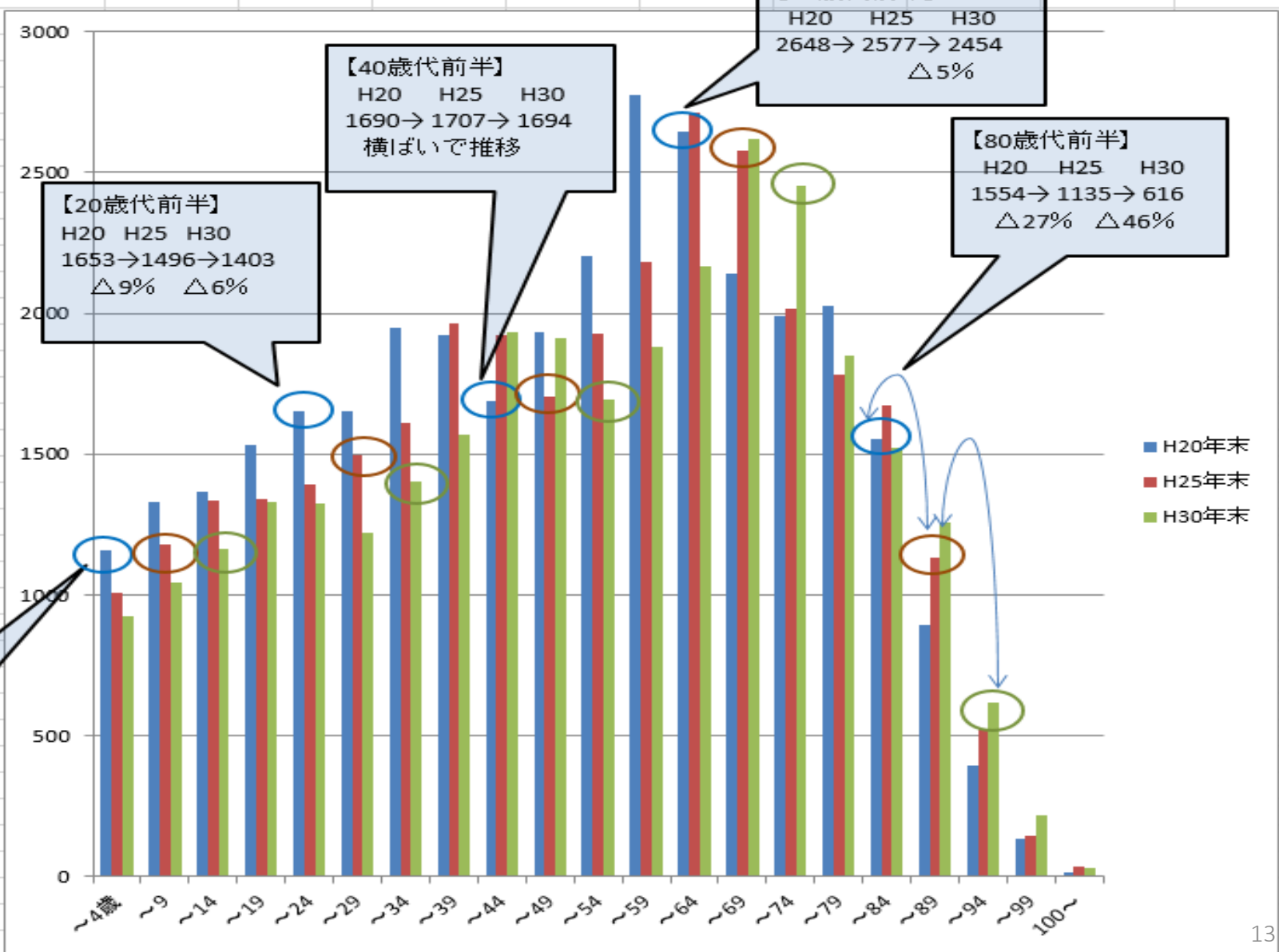


小矢部市人口動態

小矢部市・年齢別人口

	H20年末	H25年末	H30年末
～4歳	1158	1007	923
～9	1331	1177	1042
～14	1366	1333	1166
～19	1534	1341	1332
～24	1653	1394	1324
～29	1650	1496	1222
～34	1949	1612	1403
～39	1925	1962	1569
～44	1690	1925	1935
～49	1934	1707	1912
～54	2201	1926	1694
～59	2774	2185	1882
～64	2648	2715	2167
～69	2143	2577	2621
～74	1992	2016	2454
～79	2027	1782	1851
～84	1554	1675	1523
～89	893	1135	1257
～94	395	526	616
～99	133	145	219
100～	15	33	31
合計	32965	31669	30143

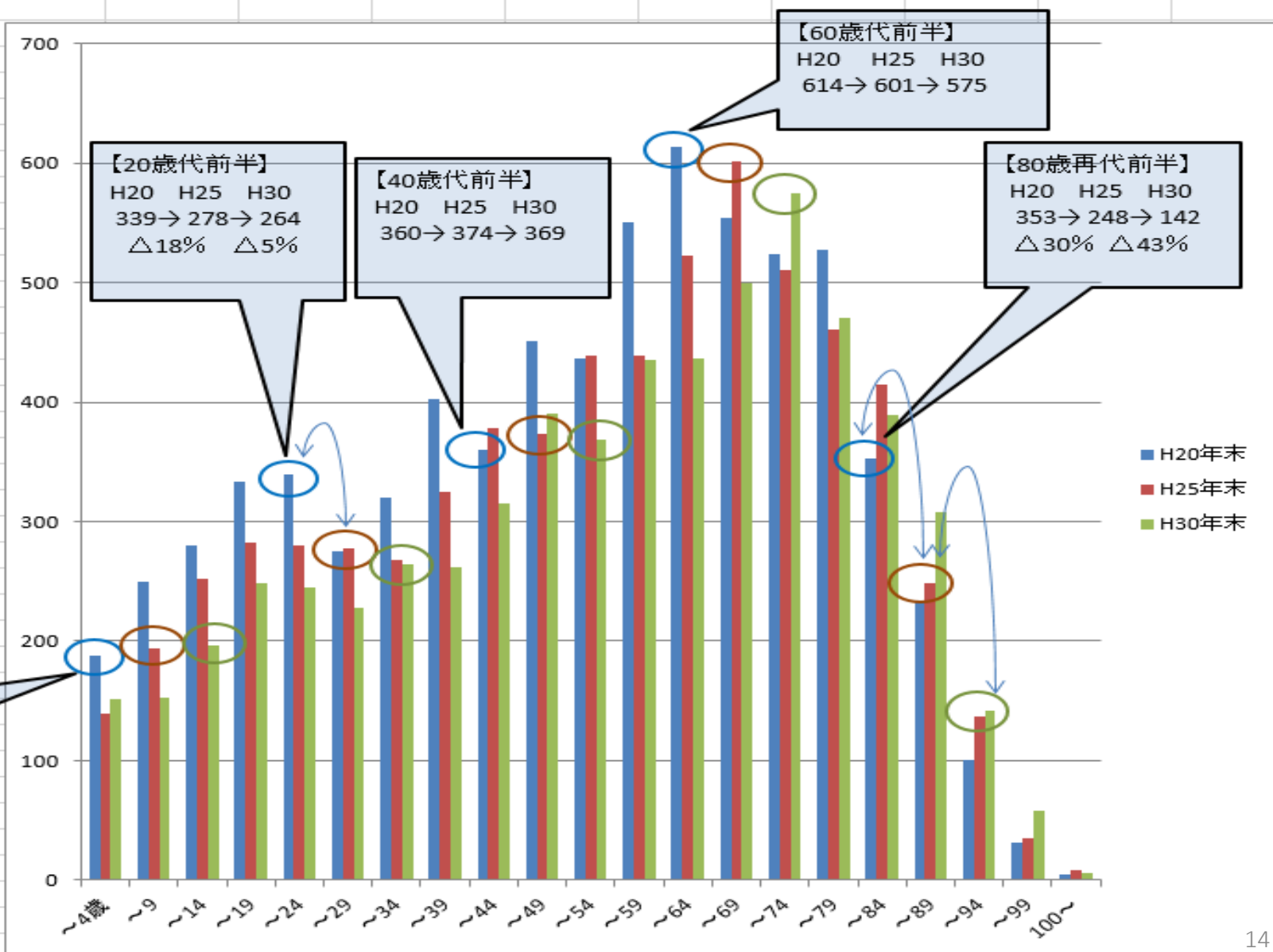
【0歳代前半】
 H20 H25 H30
 1158→1177→1166
 横ばいで推移
 ・時系列で人口減少



石動地区人口動態

石動・年齢別人口

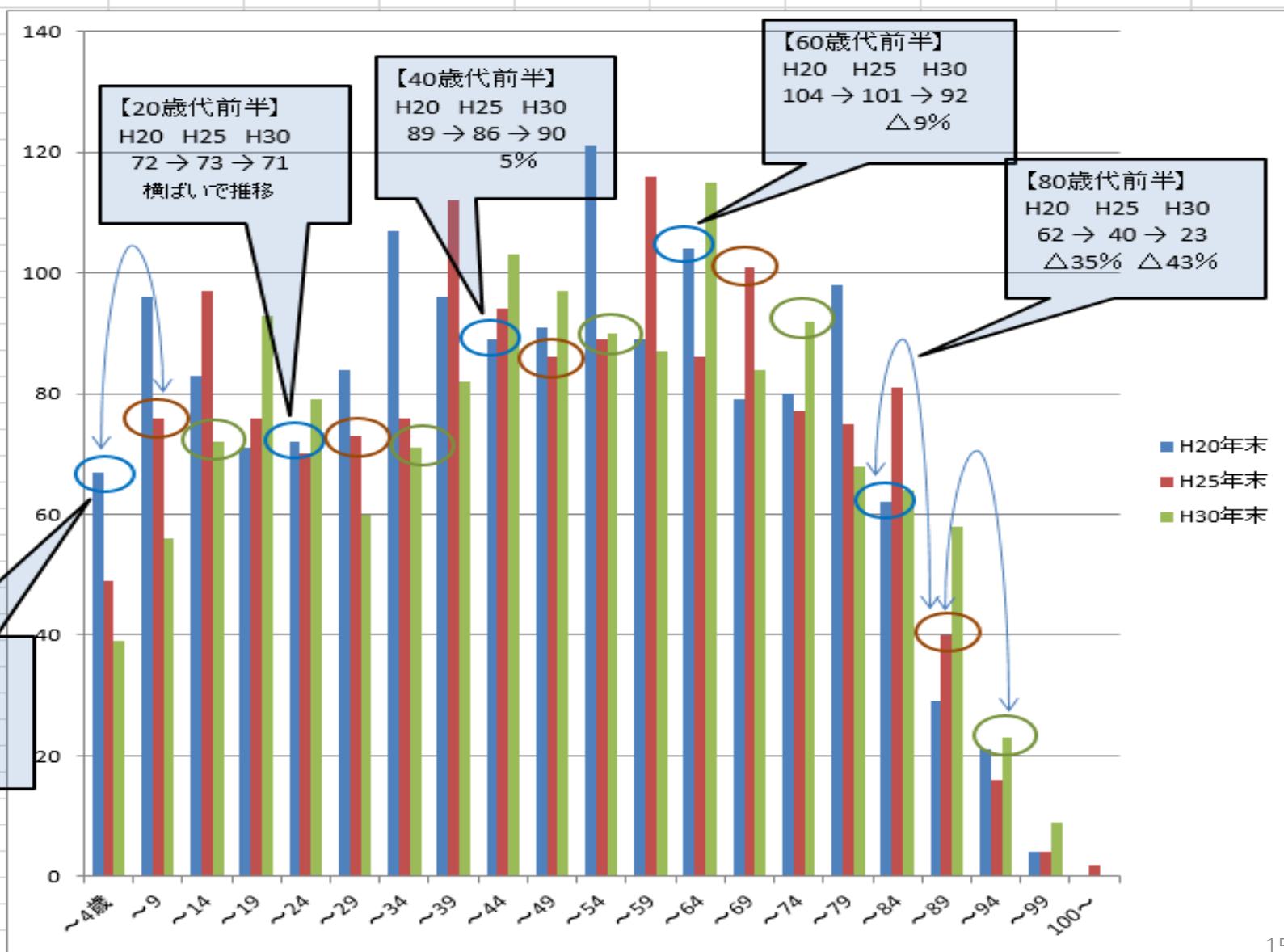
	H20年末	H25年末	H30年末
～4歳	188	194	196
～9	250	194	153
～14	280	252	196
～19	334	283	248
～24	339	280	245
～29	275	278	228
～34	320	268	264
～39	402	325	262
～44	360	378	315
～49	451	374	391
～54	436	439	369
～59	550	439	435
～64	614	523	436
～69	554	601	499
～74	524	510	575
～79	528	461	470
～84	353	415	389
～89	233	248	308
～94	101	137	142
～99	31	35	58
100～	5	8	6
合計	7128	6587	6140



正得地区人口動態

正得地区・年齢別人口

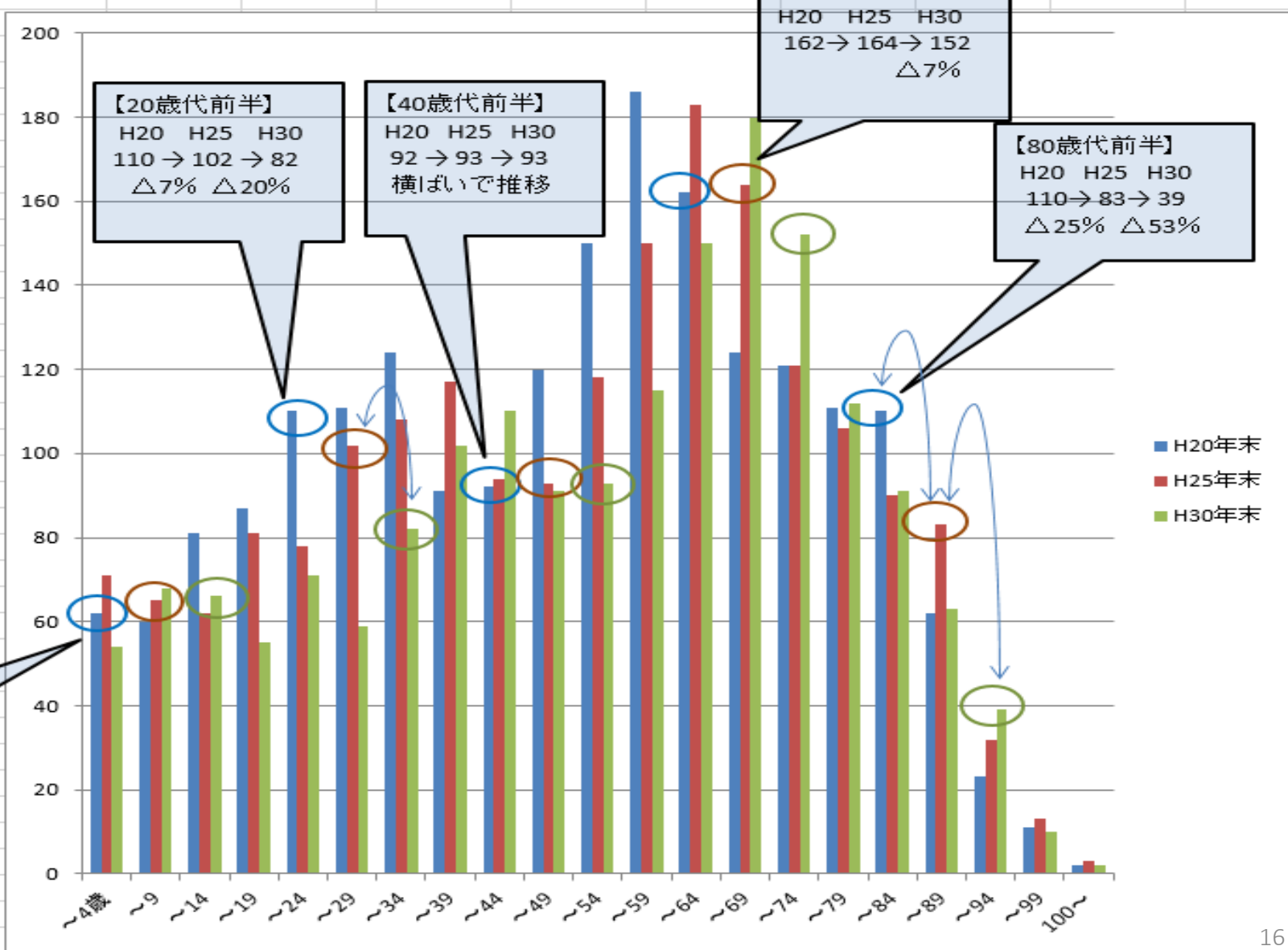
	H20年末	H25年末	H30年末
～4歳	67	49	39
～9	96	76	56
～14	83	97	72
～19	71	76	93
～24	72	70	79
～29	84	73	60
～34	107	76	71
～39	96	112	82
～44	89	94	103
～49	91	86	97
～54	121	89	90
～59	89	116	87
～64	104	86	115
～69	79	101	84
～74	80	77	92
～79	98	75	68
～84	62	81	64
～89	29	40	58
～94	21	16	23
～99	4	4	9
100～	0	2	0
合計	1,543	1,496	1,442



水島地区人口動態

水島地区・年齢別人口

	H20年末	H25年末	H30年末
～4歳	62	71	54
～9	60	65	68
～14	81	62	66
～19	87	81	55
～24	110	78	71
～29	111	102	59
～34	124	108	82
～39	91	117	102
～44	92	94	110
～49	120	93	91
～54	150	118	93
～59	186	150	115
～64	162	183	150
～69	124	164	180
～74	121	121	152
～79	111	106	112
～84	110	90	91
～89	62	83	63
～94	23	32	39
～99	11	13	10
100～	2	3	2
合計	2,000	1,934	1,765



おやべ暮らしのお手伝い

小矢部市に住んでみたい、
又はすでに住んでいる方にも……



ご存じですか？
支援のお話です。

市内の民間賃貸住宅に入居しました!!



市外から転入して入居 1万円/月(1年間)
新婚さんが入居 1万円/月(2年間)
市外から転入した新婚さん 2万円/月
(2年間※注)

※注 2年目は1万円/月になります。金額は上限額です。

34歳以下の新婚さんと夫婦の合算所得が340万円未満の場合
敷金・礼金・引越費用の一部を最大30万円補助します。

住宅を新築・購入したんです~!



市外から転入した場合
100万円+α(子ども加算あり)
市内で転居した場合 20万円
現在の敷地内での場合 10万円
新婚50万円+α(子ども加算)

三世代で暮らすために リフォームしました!!

市内の施工業者を利用して自ら居住する
住宅のリフォーム工事を行う場合
上限10万円(且成対象経費の10%)
※50万円以上に限ります。



小矢部市産の木材を 使用します!!



小矢部市産の木材を
3m³以上使用して建物を
新築・増改築・リフォームされる方に
50万円を限度に補助します。
(県の制度も併用できます)

ペレットストーブ を取り付けました!!



設置額の1/3(上限5万円)を
助成します。

転入者リフォーム助成

市内の業者が施工する工事
(50万円以上)に対して対象
経費の10%(上限10万円)
を助成します。

※転入日前、市外に一年間以上居住し
本市への転入を要件に既存住宅の
リフォーム工事を行う方



定住促進奨学金返還助成

(独)日本学生支援機構等の貸与を受けて返還されている方が
小矢部市に定住の意思を持って在住された場合、助成します。

市外からの転入者の場合 返還額の1/2
(上限2万円/月)

市内在住者の場合 返還額の1/4
(上限1万円/月)



※市内の方は2016年4月1日以降に返還する方
※助成其期間は36ヵ月

車で安心小矢部暮らし応援助成

(転入者の運転免許取得を支援)

普通自動車免許を取得する場合、

取得費用の1/2(上限10万円)を助成

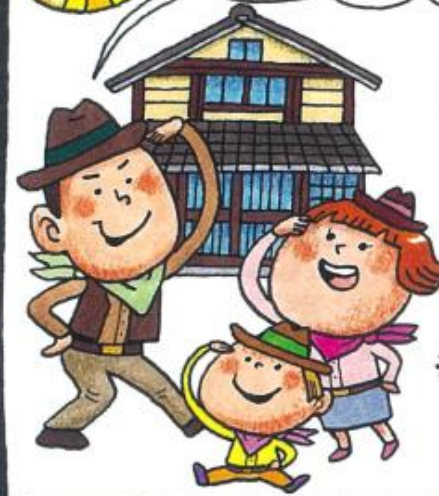
運転に不安がある人の場合、

講習費用を2回(上限1万円)まで助成

※いずれも転入者が市内自動車学校で受講
する場合に限ります。



空き家バンクで物件探し!



小矢部市の空き家バンクを
通じて建物を売買した場合

建物の所有者に5万円/件、

利用者に10万円/件

を助成しています。

(1物件1回限り)

※賃貸を利用すると

所有者に5万円/件

金額は上限額です。

支援事業等の詳しい内容については
事前に各担当課(裏面にTel番号記載)
へご確認ください。



小矢部市は暮らしやすい!

有効求人
倍率県内
No.1

通勤
通学が便利!

金沢市・富山市
高岡市



おやべ暮らし
耳より情報!

耳より1

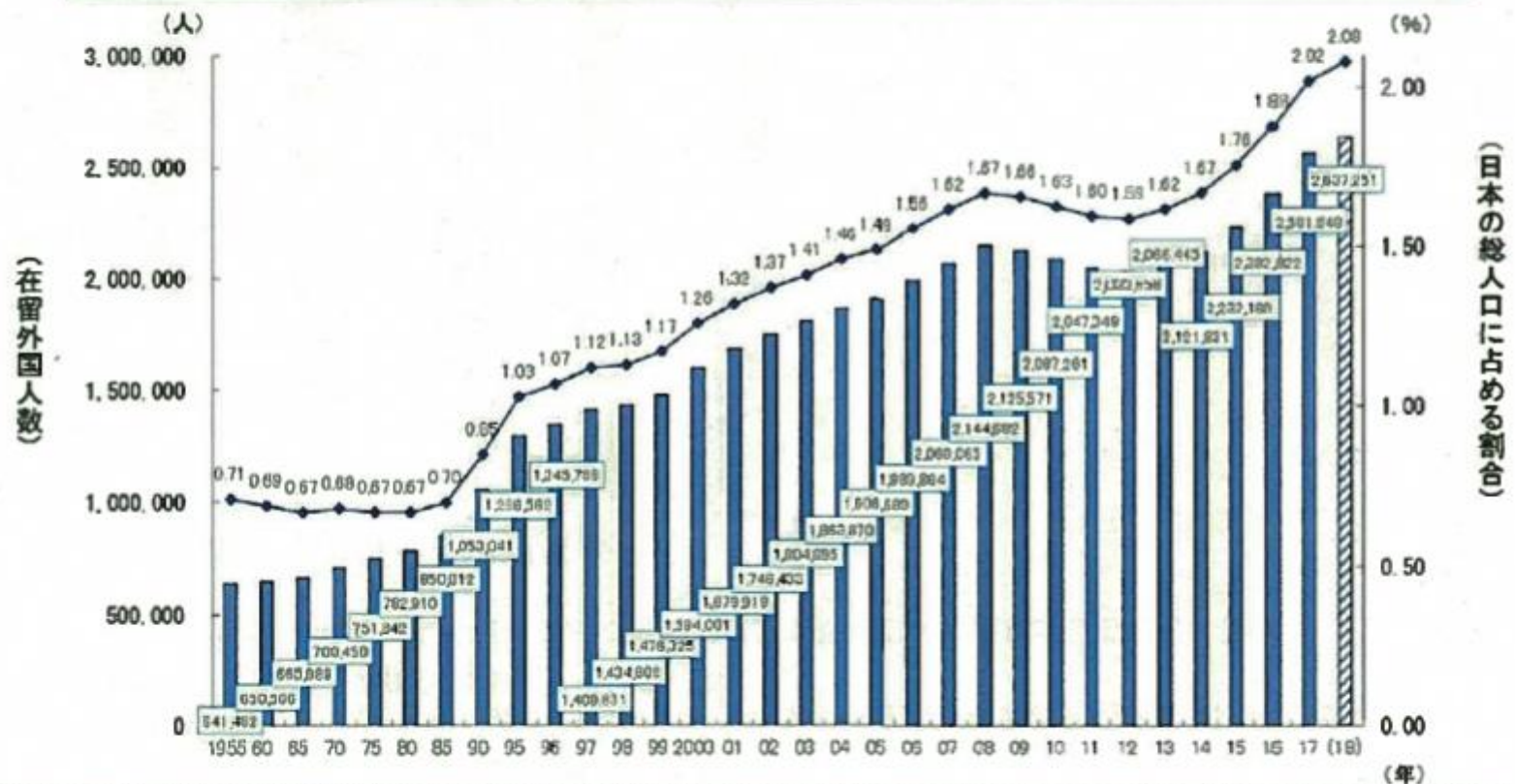
結婚したいと思ったら、
『おやべの縁結びさん』
が全力応援!

耳より2

刑法犯認知件数が県内
No.1の低さ!安心・安全!

図表1 在留外国人数の推移

○在留外国人数は1990年ごろから大幅に増加していたが、リーマン・ショック(2008年)後減少に転じ、その後再び増加傾向に。

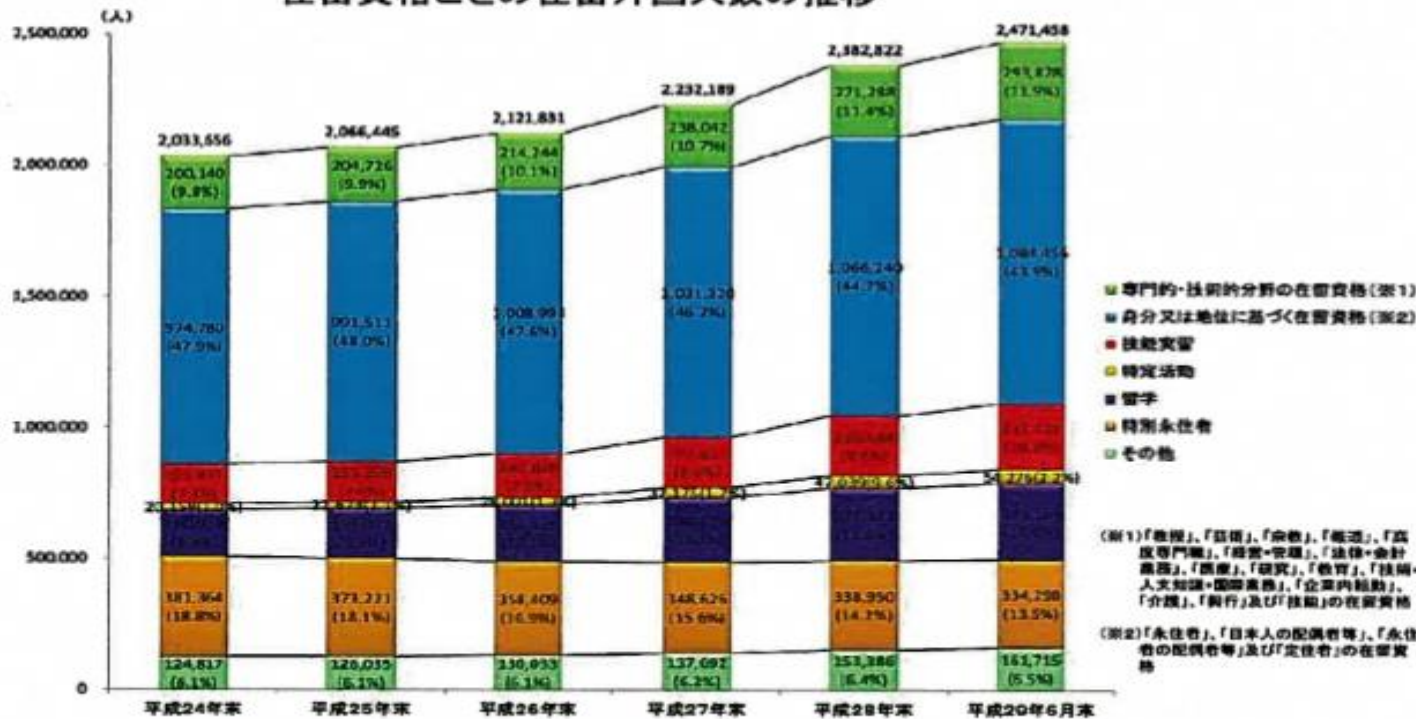


(注1) 在留外国人数は各年12月末現在(法務省在留外国人統計)。「日本の総人口に占める割合」は、総務省統計局「国勢調査」及び「人口推計」による各年10月1日現在の人口を基に算出。
 (注2) 1985年までは外国人登録者数、1990年から2011年までは、外国人登録者数のうち「中長期在留者」に該当し得る在留資格をもって在留する者及び「特別永住者」の数。
 2012年以降は、中長期在留者に特別永住者を加えた在留外国人数。
 (注3) 2018年は速報値(「在留外国人数」は、6月末現在の数値を使用、「日本の総人口に占める割合」は7月1日現在の数値を使用。)

《在留外国人》在留資格ごとの外国人数とその推移

- 法務省によると、平成8年～28年（各年末時点）の20年間で在留外国人数は**100万人以上増加**している。ここ数年も、特別永住者を除き、在留外国人の総数とともに概ね増加傾向にある。
- 経済財政諮問会議を受けて、新たな在留資格「特定技能」を有する外国人の受入れ見込み数は、**向こう5年間で最大34万人**となっており、今後も在留外国人の総数は増加すると見込まれる。
- 現在の在留資格の中では、**留学や技能実習**などの資格で在留する外国人の増加が目立っている。

在留資格ごとの在留外国人数の推移



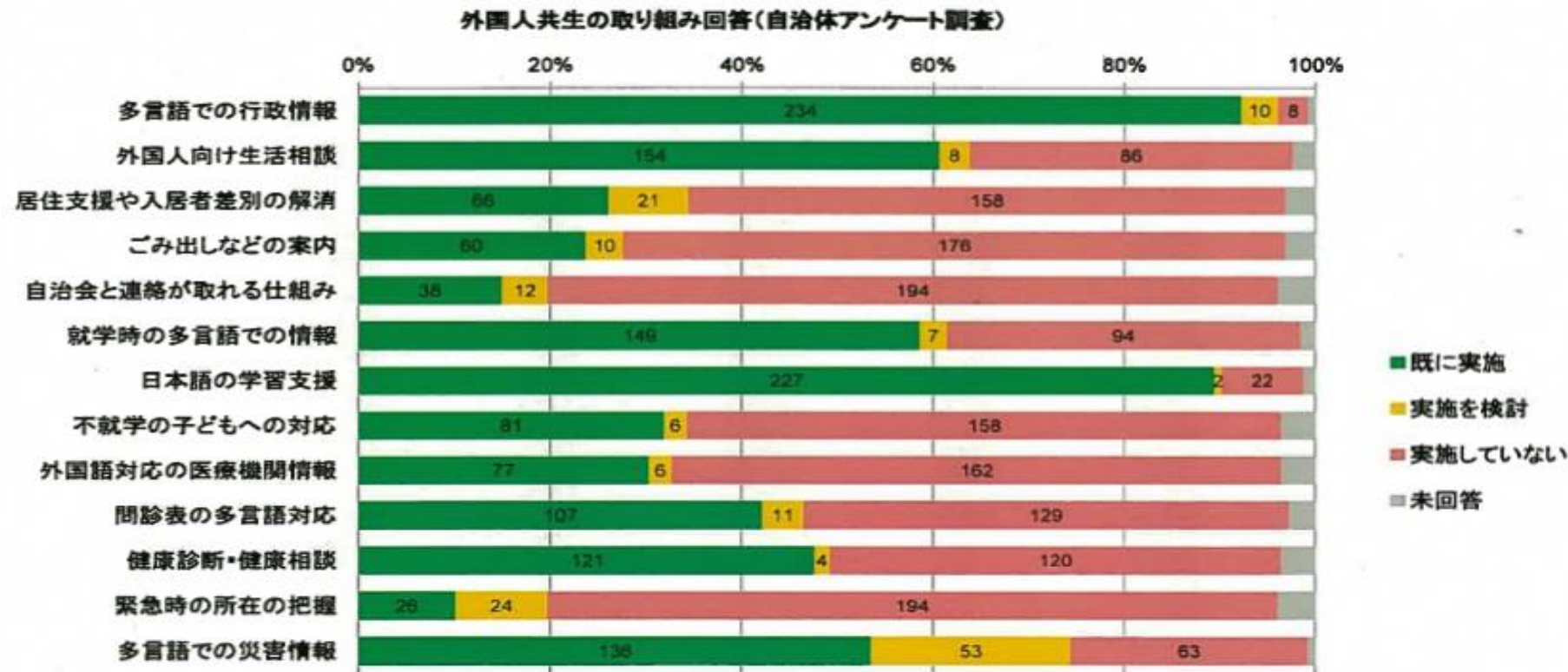
向こう5年間で新たな在留資格「特定技能」で約34万人の受入れが見込まれる。



向こう5年間の受入れ見込み (最大値)

(出所) 法務省・厚生労働省・経済産業省「高度外国人材の受入れ・就労状況」未来投資会議構造改革徹底推進委員会「企業関連制度・産業構造改革・イノベーション」会合（雇用・人材）（第2回）、平成29年12月13日、資料4、<<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisel/miraitoshikaigi/suishinkaigo2018/koyou/dai2/siryou4.pdf>>

外国人が我が国で生活・滞在する上での課題

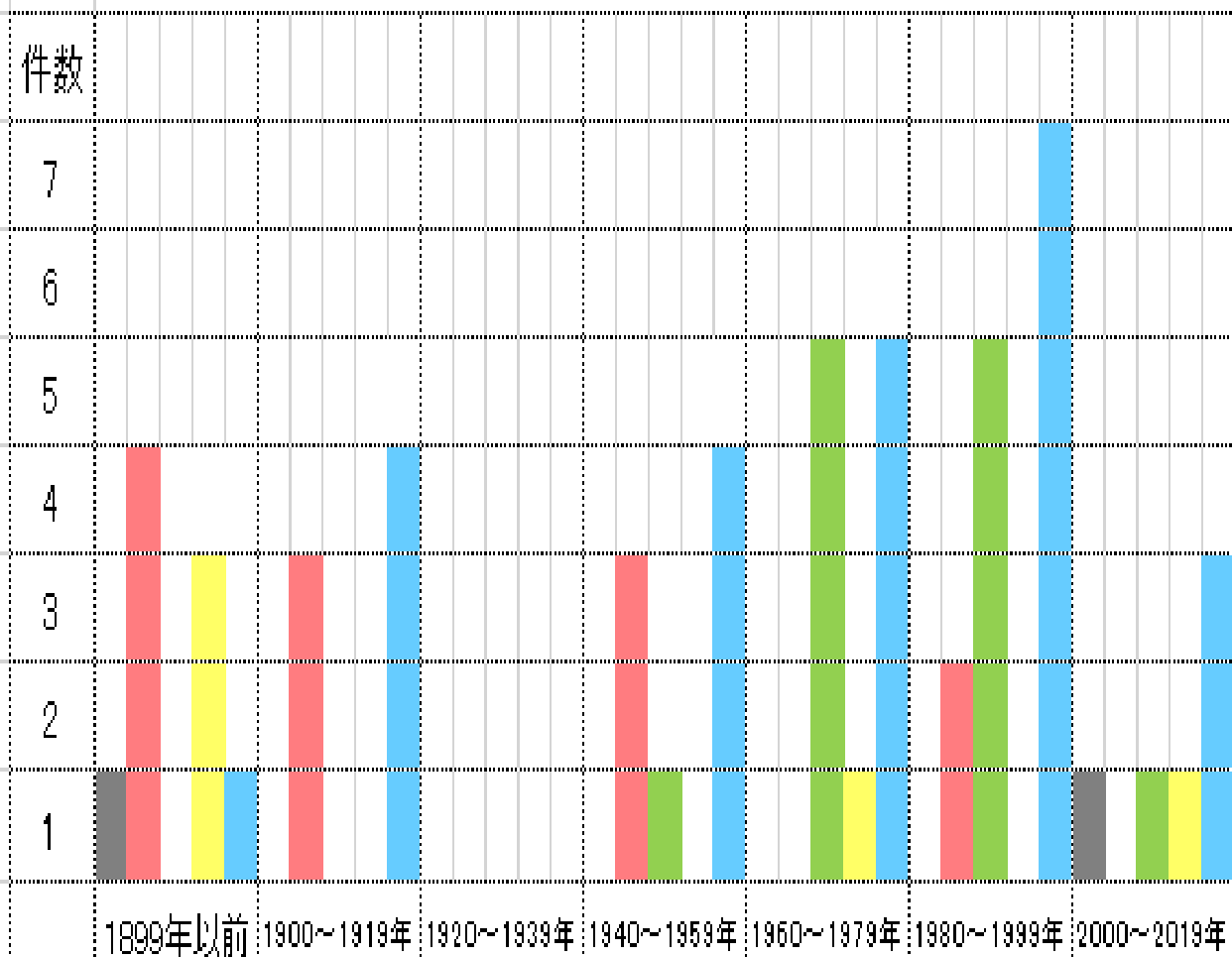


出所: 日本経済新聞 電子版 2019年2月12日の記事より作成

【調査概要】
人口が10万人以上の市区と47都道府県の計334自治体を対象に日経リサーチを通じて調査。調査時期は2018年11～12月。集計の対象は、外国人に直接対応する市区のうち回答のあった254自治体。

	地震	大火	大雪	強風	強風 大雨 (台風) (梅雨前線)	計
1899年以前	1	4		3	1	9
1900~1919年		3			4	7
1920~1939年						0
1940~1959年		3	1		4	8
1960~1979年			5	1	5	11
1980~1999年		2	5		7	14
2000~2019年	1		1	1	3	6
計	2	12	12	5	24	55

各種災害の数と割合



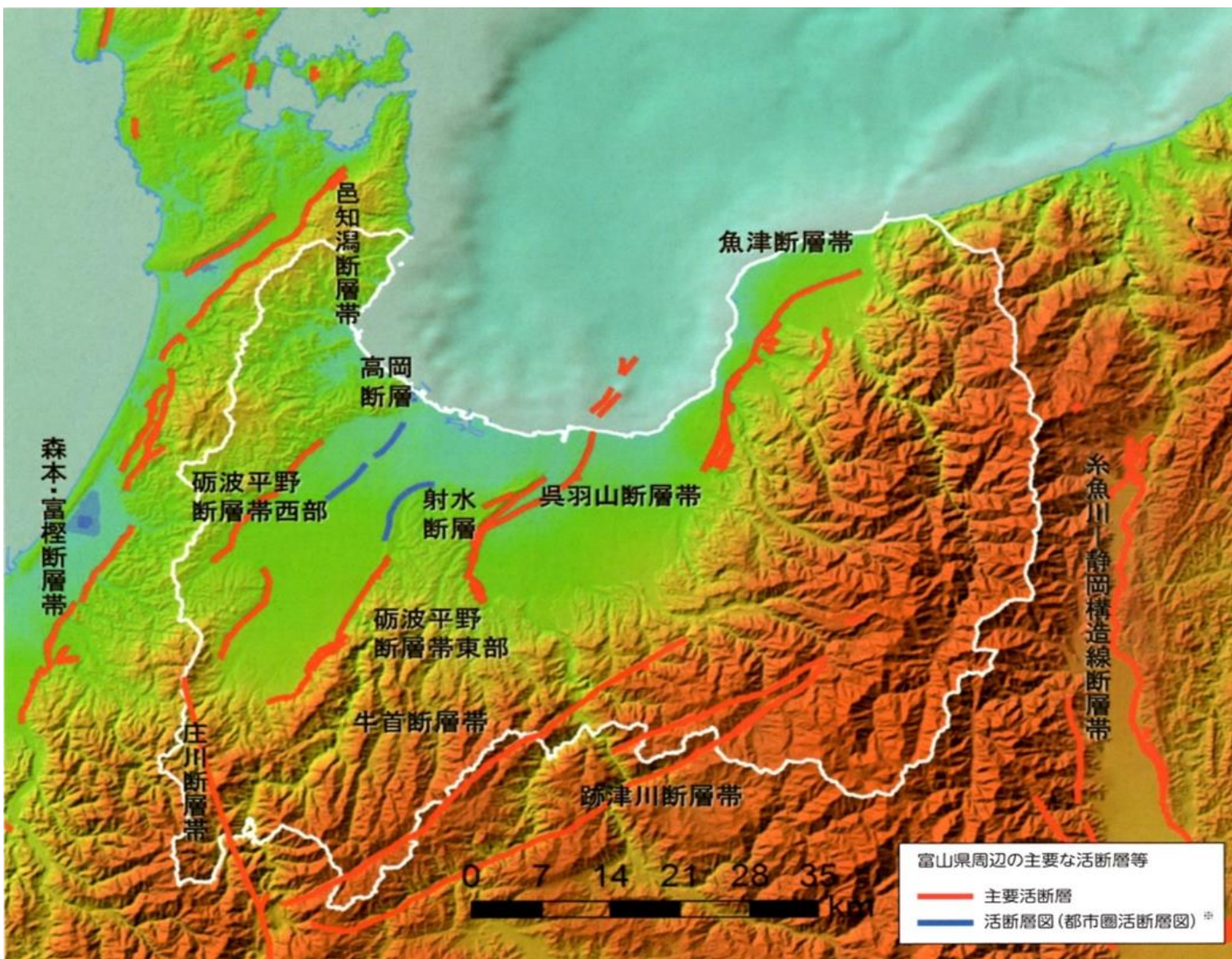
富山県の主要な活断層

災害は正しく恐れ

正しく備える

震災予防・減災対策の拡大強化

- ① 耐震化の促進
 - ・ 木造住宅の耐震化促進
 - ・ 防災拠点施設の耐震化促進
- ② 市民の防災意識啓発の推進
 - ・ 市民一斉訓練の実施
 - ・ 市ケーブルTV、出前講座



1 地震災害の想定

富山県においては、近年における大規模な地震は少ないが、過去の災害記録をみると、天正13年(1585年)には木舟城が崩壊した地震をはじめ、安政5年(1858年)には多くの家屋倒壊等の被害があった安政の大地震などが発生している。とりわけ本市近辺では、石動北部から埴生にかけて石動断層が走っており、常に警戒が必要である。

本計画における地震災害の想定にあたっては、東日本大震災(2011年3月)の教訓を踏まえ、富山県による想定値を基本としつつ、さらに小矢部市の地域性に即する様々な可能性を考慮した最大クラスの地震規模想定を前提とする。

以上の考え方に立って、本計画では以下の①、②、③の三通りの方法により推計されたそれぞれの被害予想量を対象別(建物全半壊、火災延焼、死者、負傷者、避難所避難者等)に比較し、このうち大きい値を被害想定値として用いるものとする。

- ① 砺波平野断層帯西部を震源とする阪神・淡路大震災級の直下型地震を想定した被害予想
- ② 呉羽山断層帯を震源とする直下型地震を想定した被害予想
- ③ 邑知鴻断層帯を震源とする地震を想定した被害予想

以上の検討結果に基づき、小矢部市における地震被害を以下のように想定する。

〔小矢部市における地震被害の想定〕

	被害の種別	被害予想（※）			市の防災計画画面における被害想定
		① 砺波平野断層帯西部を震源とする地震被害	② 呉羽山断層帯を震源とする地震被害	③ 邑知潟断層帯を震源とする地震被害	
人的被害	死者	150 人	1 人	354 人	354 人
	負傷者	1,189 人	673 人	1,664 人	1,664 人
	避難所避難者	8,858 人	5,580 人	13,313 人	13,313 人
物的被害	建物全壊	5,237 棟	34 棟	11,331 棟	11,331 棟
	建物半壊	7,048 棟	10,239 棟	5,488 棟	5,488 棟
	火災・延焼	41 件	—	88 件	88 件
	落下物	1,437 件	—	6,289 件	6,289 件
	ブロック塀等の倒壊	68 件	104 件	479 件	479 件
	自動販売機の転倒	—	35 件	—	35 件
その他	要救出現場数	346 現場	—	—	346 現場
	避難所数	15～16 箇所	—	—	15～16 箇所

※被害予想については、調査手法が同一ではないことから、被害想定の対象項目について、一部一致していない箇所がある。

2 風害*

本市地域での風害は、夏の終りから秋のはじめにかけて通過する台風によるものが多い。*

西日本から日本海へ抜ける南風は強く、山を越えた気流によってフェーン現象を誘発するので、空気は乾燥して、火災が起こりやすくなる。また、中部、関東地方を通過し北東の経路をとる台風は、暴風雨が強く家屋の損壊、樹木の倒伏及び農作物等に対する大きな被害となることが予想される。*

特に、近年では、平成3年の台風19号の強風による34棟全半焼の大火災、平成16年の台風23号による死者・負傷者の発生、多数の倒木の被害等が発生しており、風害に対しては、常に警戒を要する。*

また、竜巻の発生に対しても注意を要する。*



小矢部市洪水ハザードマップ 全体図



2019年3月作成



凡例

- 浸水深
- 浸水深 20.0m～
 - 浸水深 10.0～20.0m
 - 浸水深 5.0～10.0m
 - 浸水深 3.0～5.0m
 - 浸水深 0.5～3.0m
 - 浸水深 0～0.5m

- 家屋倒壊等氾濫想定区域
- 土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
※詳細は「土砂災害ハザードマップ」をご確認ください

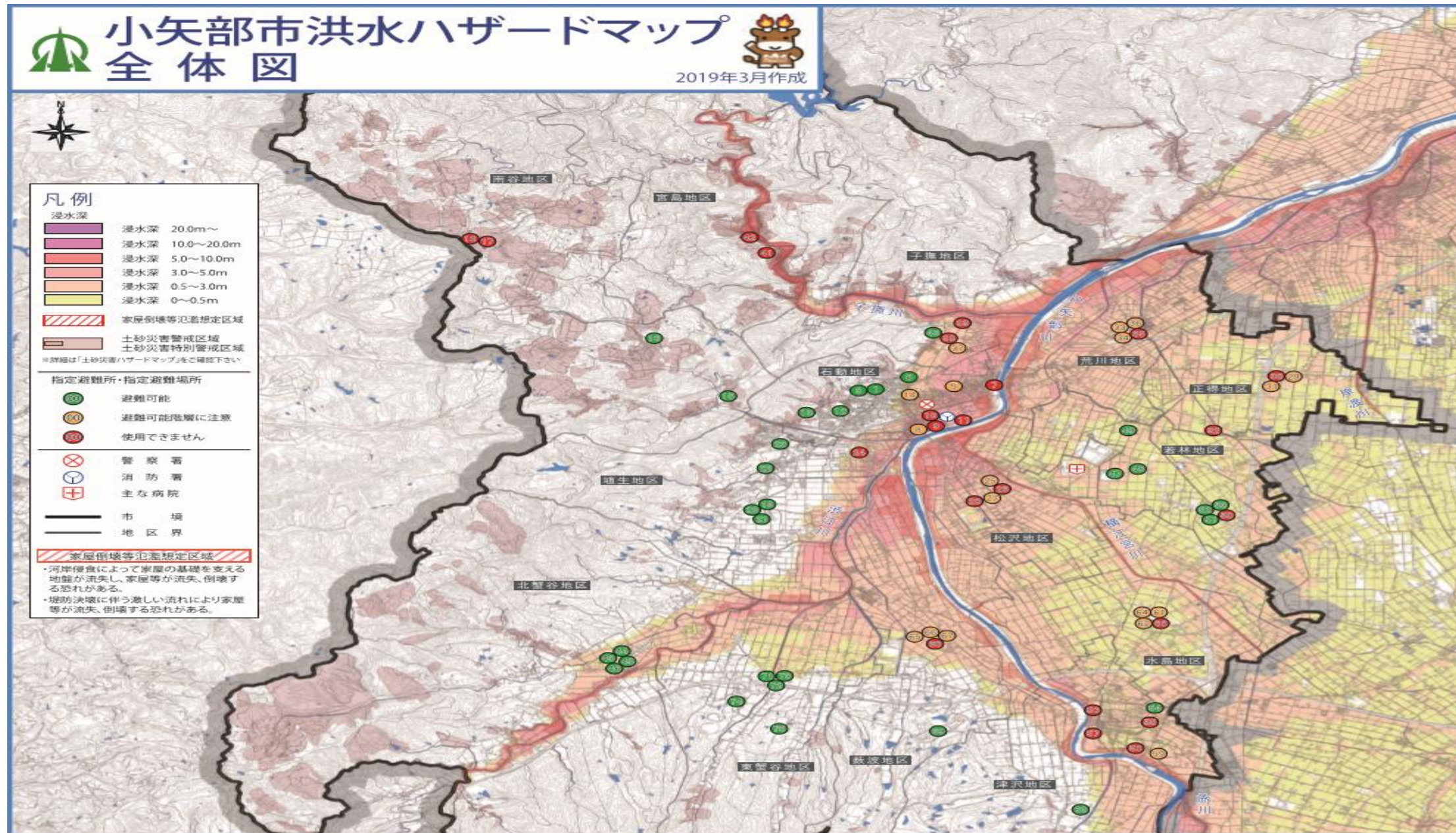
指定避難所・指定避難場所

- 避難可能
- 避難可能階層に注意
- 使用できません

- 警察署
- 消防署
- 主な病院

- 市境
- 地区界

- 家屋倒壊等氾濫想定区域
 - ・河岸侵食によって家屋の基礎を支える地盤が流失し、家屋等が流失、倒壊する恐れがある。
 - ・堤防決壊に伴う激しい流れにより家屋等が流失、倒壊する恐れがある。



3 水害

小矢部市における水害は、過去の記録においては、ほぼ6月から9月に発生している。

今後も、梅雨期の長雨、梅雨明けの集中豪雨や台風期の大雨による河川の氾濫、田畑の浸水等の災害発生が十分に予想されるので注意が必要である。

(1) 融雪による水害

3～5月、山間部積雪地帯、特に南谷地区、北蟹谷地区において多いときには、1日に20cm以上の融雪となることも十分に予想され、そのために、河川の水位は予想以上に上昇し、降雨が重なると渋江川・子撫川等では、警戒水位を突破して洪水を招きやすく、警戒を要する。

(2) 梅雨による水害

梅雨期による水害は、台風期の水害とともに大規模な災害がたびたび発生している。梅雨前線による集中豪雨は、梅雨末期に起こることが多い。

梅雨期は、雨が多く河川の水位はかなり上昇しているため、市内西側中小河川では、上流で集中豪雨が降るとたちまち警戒水位を突破して洪水を招きやすい。

特に、梅雨前線による雨は、台風による雨と違って比較的長時間にわたって降ることが多く、警戒を要する。

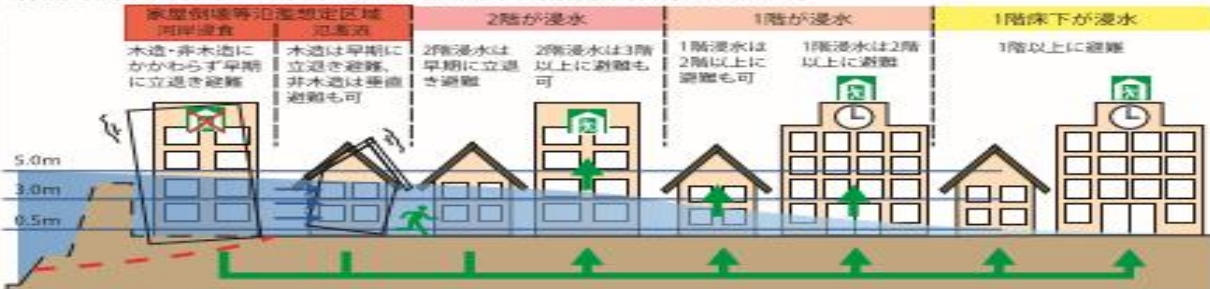
(3) 局地的集中豪雨による水害

局地的な原因（地形、局所的な風の分布）により起こると考えられている集中豪雨は、豪雨の範囲が狭く、数km離れたところでは、雨量が中心地域の1割にもみえない場合もある。

特に、平成20年の南砺市での局所的集中豪雨による被害発生など、近年は、短時間に一部の地域に集中的に降る「ゲリラ豪雨」が発生するケースが多く、河川の上流地域の状況の把握も含めた対応策が必要となっている。

避難の考え方

自宅がどの範囲に入っているのか確認し、どのように避難するのか家族と話し合ってみましょう。



被害を抑えるための自衛策

状況により、すばやく避難しましょう
避難情報などが発表されていなくても、雨の状況などから判断し、自主的に避難しましょう。

家族には連絡メモを残そう
外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくといいでしょう。

防災メモを持とう
高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。

洪水の中での避難は注意しましょう
浸水深が深くても流れが速いと歩行が困難になります。また、水は泥で茶色く濁っているため避難時は注意しましょう。

持ち出し品は最小限に
非常用持出品はリュックザックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

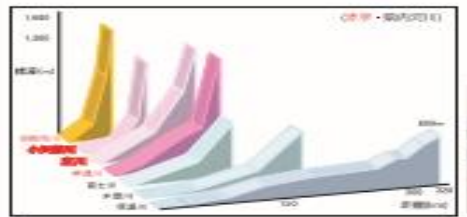
集団で助け合おう
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。

安全なルートで避難
避難所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

安全な避難経路の確認
日ごろから洪水ハザードマップを使用しながら市や自治会の避難訓練に参加し、避難経路の安全を確認しておきましょう。

近隣河川の特徴と最近の出水状況

小矢部川や庄川などの県内河川は、地理的要因により1,500mの山々から約100kmで富山湾に到達します。その勾配は全国的にも急勾配で、大雨によって急峻な山地から多量の土砂を流出させ、急流が堤防護岸を崩し、建物を押し流す恐れがあります。



●平成30年7月豪雨では、庄川で平成16年の台風23号出水に次ぐ、観測史上2位の出水を記録（大門観測所）し、「氾濫注意水位」を超過（小牧観測所、大門観測所）しました。

●平成29年10月の台風21号による48時間降雨量は、五箇山で統計開始以来最高の286mmで、小矢部川（長江観測所）で氾濫危険水位を、庄川（大門観測所）でも氾濫注意水位を超過しました。 ※それぞれ観測史上3位

●平成25年の台風18号による豪雨では小矢部川（長江観測所）で、避難判断水位に到達する水位が記録されました。避難判断水位に到達するのは、小矢部川（長江観測所）では平成20年7月28日以来で、観測史上第4位の水位となりました。

水位の名称(洪水予報の標題)

●水位ごとに、とるべき行動や危険度に応じた名称・レベルが付けられています。

レベル5 はん濫流の発生(はん濫発生情報)
・水防機関による逃げ遅れた住民の救助等
・新たにはん濫が及ぶ区域の住民の避難誘導

レベル4 はん濫危険水位(はん濫危険情報)
・市は「避難勧告」等の発表を判断
・住民は避難を判断

レベル3 避難判断水位(はん濫警戒情報)
・市は「避難準備・高齢者等避難開始」等の発表を判断
・住民は、氾濫に関する情報に注意

レベル2 はん濫注意水位(はん濫注意情報)
・水防団出動

レベル1 水防団待機水位
・各水防機関が水防活動に対して準備する水位

河川	水心観測所	水位の危険度	避難判断水位	はん濫危険水位	はん濫発生水位
小矢部川	新堀元水橋	1.1	1.5	1.9	2.2
小矢部川	川崎橋	1.5	2.0	2.3	3.1
小矢部川	津波	4.7	5.2	6.2	6.6
小矢部川	石動	1.7	2.5	4.8	5.3
小矢部川	長江	5.0	5.8	6.9	7.3
厚狭川	厚狭川橋	1.7	2.0	2.0	2.6
越川	越川橋	1.3	1.5	1.5	1.9
越川	越川橋	1.4	1.5	2.0	3.0
越川	下平手橋	1.8	2.1	2.6	2.8
越川	藤宮	3.2	3.7	4.4	4.8
子母川	子母川	2.0	2.8	4.3	4.7
庄川	大門	5.0	5.5	7.4	7.7

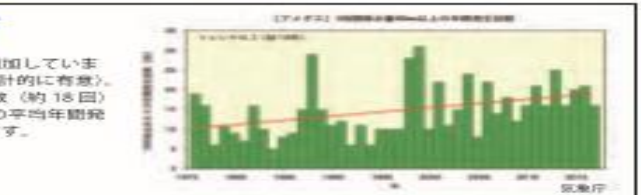
●避難判断水位は、市が氾濫危険水位に達する前に避難所開設に必要な時間を考慮して設定されています。

●氾濫危険水位は、氾濫発生前に住民の避難等に必要の時間を考慮して設定されています。

●各河川のリアルタイムの水位情報は裏面の「防災関連情報」より収集できます。

近年の雨の降り方

全国の1時間降水量80mm以上の年間発生回数は増加しています(統計期間1976～2017年で信頼水準99%で統計的に有意)。最近10年間(2008～2017年)の平均年間発生回数(約18回)は、統計期間の最初の10年間(1976～1985年)の平均年間発生回数(約11回)と比べて約1.6倍に増加しています。



雨の降り方の目安

避難情報に気をつけ、情報がでたら早めの避難を心がけましょう。

<p>やや強い雨 18時間に15～20mm</p> <p>ザーザーと降る雨で、地面からの跳ね返りで足元がぬれる程度の雨です。長雨になりそうなら注意が必要です。</p>	<p>強い雨 18時間に20～30mm</p> <p>どしゃ降り雨で、傘をさしてもぬれるほどの雨です。小さな川ならあふれる恐れがあります。テレビやラジオで今後の様子に注意し、長引きそうなら避難の準備をしましょう。</p>	<p>激しい雨 18時間に30～50mm</p> <p>バケツをひっくり返したような激しい雨です。道路が川のようになり、視界も行われず。避難の準備をしましょう。</p>	<p>非常に激しい雨 18時間に50～80mm</p> <p>滝のように降り、あたりが水しぶきで白くばくなるような雨です。多くの災害が発生するおそれがあり、警戒が必要です。車での移動は避けましょう。</p>	<p>猛烈な雨 18時間に80mm以上</p> <p>思ってもみないような圧迫感があり、恐怖を感じるような雨です。大規模な災害が発生するおそれがあり、警戒が必要です。車での移動は避けましょう。</p>
--	---	---	--	---

非常時の持ち出し品

避難の際に持ち出す「非常用持出品」をあらかじめ準備しておきましょう。持出品は定期的にチェックし、有効期限や電池等が切れていないか確認しておきましょう。

<p>「非常食」</p> <p>飲料水、缶詰、レトルト食品など</p>	<p>「救急医療品」</p> <p>救急箱(三角巾、ガーゼ、絆創膏、消毒薬、傷薬、体温計など)</p>	<p>「道具」</p> <p>懐中電灯、携帯ラジオ、タオル、石炭、ロープ、ナイフ、ひも、ライター、使い捨て食器など</p>
<p>「衣類」</p> <p>下着、靴下、季節に応じた厚物、軍手、サック、シューズなど</p>	<p>「貴重品」</p> <p>現金、貯金通帳、印鑑、権利書など</p>	

警報・注意報

警報・注意報	内容	発表基準
特別警報	大雨(浸水害)	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表します。発表された場合、重大な土砂災害や浸水害が発生する恐れが著しく大きい状況が予想されます。
警報	大雨(浸水害)	大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。
	洪水	河川の上流域での大雨や融雪によって下流で生じる増水や氾濫により重大な洪水害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。
注意報	大雨	大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。
	洪水	河川の上流域での大雨や融雪によって下流で生じる増水により洪水害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。

記録的短時間大雨情報
数年に一度程度しか発生しない短時間の大雨を観測・解析した時に気象台が発表します。富山県内では1時間雨量が100mmに達すると発表され、発表されると、お住まいの地域で土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながる猛烈な雨が降っています。

4 火災

火災の発生及び拡大は、気温、湿度、風速等の気象条件と密接な関係をもっている。

一般に大火や林野火災は、日本海側においては春季に多く、特に気温の上昇と強い風をもたらすフェーン現象の起こった場合に大火となる例が多くあり、過去、藪波・東蟹谷地区や水島地区の散居村地域で広範囲にわたる大火が発生した例がある。

火災は、低温で火気使用率が高い冬季から春季にかけて多数発生する。出火原因についてみると、火災の多くは、火気取扱いの不注意や不始末からの出火によるものであり、そのほとんどは人為的ミスによるものが多い。大規模商店、宿泊施設等の場合には多数の被害者を出し社会的問題となることがあるので、防火管理や火気取扱いに十分に注意を払うとともに火災予防対策に万全を期す必要がある。

5 雪害

北陸地方の雪の降り方には、「山雪」と「里雪」の二つのタイプがあり、特に里雪の気圧配置は、全体として西高東低型であるが日本海東部に小低気圧のあることが多く、ここでは等圧線の間隔が広く気圧傾向がゆるやかになって、南にわん曲し、袋の形をしているのが特徴である。1日に50～80cmの降雪量を記録することもあり、砺波平野特有の散居村地域であるために、交通障害、農林業被害、通信の途絶など住民生活及び産業活動に大きな影響を与えると同時に家屋の倒壊などの被害が想定される。